

(要領様式第5号)

研修カリキュラム

年度	令和8年度
分野	障害児保育
実施機関	一般社団法人保育のデザインアドバンス

	研修名	講師名	内容	研修形態	時間	総時間数	開催日程	会場	定員
1	障害とその支援に関する理解 (障害の理解)	国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 久保山 茂樹	障害とはなにか。共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育、特別支援教育について、解説している。自園の子どもたちを、共生社会の担い手として育むために、保育者は何をなすべきか、ワークを通して具体的に考える。	講義＋演習(eラーニング)	2時間4分	15時間19分	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月15日	パソコン スマートフォン タブレット	1,500人
2	気になる子どもの視点から保育を見直す (障がいの理解 / 障害児保育の環境)	国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 久保山 茂樹	気になる子どもの存在は、保育のあり方を見直す大きなきっかけになるのではない。具体的な事例を通して、様々なニーズのある子どもへの理解を深めると共に、全ての子どもに対する保育の在り方を見直し、考える。	講義＋演習(eラーニング)	3時間9分		令和8年4月1日 ～ 令和9年3月15日	パソコン スマートフォン タブレット	1,500人
3	障害児の発達の援助 (障害児の発達の援助)	八戸学院大学短期大学部 教授 差波 直樹	特別な支援を必要とする子どもの保育や、保護者との接し方等について、保育者であった講師の体験をもとに解説している。	講義＋演習(eラーニング)	2時間48分		令和8年4月1日 ～ 令和9年3月15日	パソコン スマートフォン タブレット	1,500人
4	障害児保育の指導計画、記録及び評価 (障害児保育の指導計画、記録及び評価)	仙台白百合女子大学 教授 三浦 主博	全ての子どもが共に育ちあっていくためには長期・短期の計画に基づき、見直しをもったクラス運営が大切である。そのための指導計画の立案から実践、評価までの流れや留意するポイント等を学ぶ。	講義＋演習(eラーニング)	2時間28分		令和8年4月1日 ～ 令和9年3月15日	パソコン スマートフォン タブレット	1,500人
5	気になる子どもの保護者への支援・保護者 との協働 (家庭及び関係機関との連携)	国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 久保山 茂樹	保育者は、施設での子どもの姿を話したい。保護者は自分のおもいを話したい。故に、両者の間で、ずれが生じることも多い。保護者の手記や事例を通して、「気になる子どもの保護者のおもいや歴史」を踏まえた保護者支援や、協働について考える。	講義＋演習(eラーニング)	2時間34分		令和8年4月1日 ～ 令和9年3月15日	パソコン スマートフォン タブレット	1,500人
6	関係機関との連携 (家庭及び関係機関との連携)	玉川大学・玉川大学大学院 教授 若月 芳浩	様々な課題を抱える子どもたちが共に育ち合っていくためには、保育者のインクルーシブなマインドと保護者・専門機関との連携が重要であることを学ぶ。またワークを通し、自園の課題を明確にし、その解決の手立てを考えていく。	講義＋演習(eラーニング)	0時間59分		令和8年4月1日 ～ 令和9年3月15日	パソコン スマートフォン タブレット	1,500人
7	医療的ケアが必要な子どもの保育 (障害の理解)	香川大学 准教授 松井 剛太	医療的ケア児の現状を踏まえて、医療的ケア児の支援のためのガイドラインについて解説している。医療的ケア児を含むインクルーシブな保育について考える	講義＋演習(eラーニング)	0時間24分		令和8年4月1日 ～ 令和9年3月15日	パソコン スマートフォン タブレット	1,500人
8	インクルーシブな保育 (障害の理解)	玉川大学・玉川大学大学院 教授 若月 芳浩	インクルーシブ保育を実現していくために必要な視点や方向性について具体的な幼稚園の実践を交えて説明している。保育における合理的な配慮や、日常の保育と行事の関係性等を学び、インクルーシブな保育は子どもの主体の保育に通じることを理解する	講義(eラーニング)	0時間53分		令和8年4月1日 ～ 令和9年3月15日	パソコン スマートフォン タブレット	1,500人

※ 保育士等キャリアアップ研修の修了証の交付を受けるためには、1～8すべての研修を受講する必要があります。